

## IV 特別支援教育研究連合 各研究部会

「この研究は公益財団法人日本教育公務員弘済会  
宮崎支部からの助成金を受けて行っています」

## 視覚障がい教育研究部会

### 1 研究主題

「未来につなげる明星教育～授業力・指導力向上を目指して～」

### 2 主な研究・活動の内容

事業内容	事業計画の概要		
	年 月 日	場 所	実 施 内 容
研 究 会 及 び 研 修 会  その他	R 4. 4月～6月	明星視覚支援学校	○基本研修（歩行、点字、眼疾患、弱視教育、進路、情報機器等）
	R 4. 4. 27（水）	明星視覚支援学校	○第1回視覚障がい教育研究部会代議員会 ○第1回合同研修会
	R 4. 4. 29（金）	明星視覚支援学校	○視覚障がい福祉機器展
	R 4. 6月	都城市 明星視覚支援学校	○都城サテライト ○課題研究開始
	R 4. 7月29日（金）	明星視覚支援学校	○県特研連研究大会大会 ○視覚障がい教育研究部会研修会 （県特研連研究大会分科会として開催） ○第2回合同研修会（教材教具研修会）
	R 4. 8月	延岡市 明星視覚支援学校	○あいあい教室（延岡市） ○全日盲研富山大会参加（リモート）
	R 4. 10. 15（土）	明星視覚支援学校	○視覚障がい福祉機器展
	R 4. 10. 21（金）	明星視覚支援学校	○あいあい教室
	R 4. 11月	都城市 明星視覚支援学校	○都城サテライト ○授業参観週間 （宮崎・東諸県エリア部会授業公開日を含む）
	R 4. 11. 18（金）	沖縄	○九盲研沖縄大会参加（リモート）
	R 4. 12. 3～23	宮崎・東諸県エリア	○宮崎・東諸県エリア研修会（オンデマンド）
	R 4. 1月	栃木	○日弱研栃木大会参加（予定）
	R 5. 2. 2（木）	明星視覚支援学校	○第2回視覚障がい教育研究部会代議員会 ○第3回合同研修会
	R 5. 3. 17（金）	明星視覚支援学校	○視覚障がい教育研究報告会
	○ しろやまサテライト（延岡しろやま支援学校） 5～3月 月1回実施 ○ 宮大サテライト（宮崎大学医学部附属病院） 4～3月 月1回実施		
	○ 広島大学の ICT 研究の協力校となっている。 ○ 本校は次年度九盲研（宮崎大会）の主管校を務めるため、今年度半ばより大会準備会を立ち上げ、次年度の大会実行委員会へとつながる業務を実施する。		

- (1) 合同研修会「意見交換会」  
本部会の代議員会の後、特別支援教育コーディネーターも参加し、本部会員の中学校と意見交換会を実施した。
- (2) 視覚障がい教育研究部会研修会（県特研連研究大会分科会として開催）  
県内に2名しかいない歩行訓練士のうちのお一人、清水達士氏を講師に迎え、歩行訓練の総論から具体的かつ実践的な各論まで教示いただいた。
- (3) 教材教具展示会

### 3 主な研究成果

本部会は、大王谷学園中等部含め会員校は2校のみである。今年度本校が主管となったエリア部会研修会を、視覚障がい教育について発信する機会としてとらえ Web 開催することができた。

# 聴覚障がい教育研究部会

## 1 研究主題

「本県における聴覚障害教育の専門性の継承とさらなる発展」

## 2 主な研究・活動の内容

### (1) 年間活動報告

期日	活動概要	会場
6月29日	総会 第1回運営委員会	都城さくら聴覚 (リモート)
7月29日	聴覚障がい教育部会研修会	延岡しろやま (リモート)
10月4日 ～5日	第27回 九州地区聴覚障害教育研究大会福岡大会	福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校他
10月6日 ～7日	第56回 全日本聾教育研究大会愛知大会	愛知県立千種聾学校他
2月	第2回運営委員会	都城さくら聴覚 (リモート)

### (2) 聴覚部会研修会について

ア 講演会 テーマ「聴覚障害児のセルフアドボカシー」

講師 岡山県早島クリニック医師

発達支援・放課後ディサービス キッズファースト 福島邦博氏

イ 協議 「子ども達に身に付けさせたい力」

## 3 主な研究成果

- 昨年度より聴覚障がい教育部会としての運営が始まり、本年度から本格的に活動に取り掛かることができた。事務局と研修担当を都城さくらと延岡しろやま（ととろ部門）で分担して運営を行った。また、一昨年まで所属していた難聴・言語部会とも互いに案内を送付し、部分的にはあるが、互いの会に参加することができた。
- 福島氏の講演会では、聴覚障がい児に対するセルフアドボカシーについての理解を深めると共に、各段階における到達目標や具体的な指導例について知ることができた。その後の協議では、提示された到達目標をもとに作成したチェックリストを活用し、学部・学年別のグループで意見交換を行った。短い時間ではあったが、2校の課題や指導の難しさを共有したり、取組について意見交換したりすることができた。
- 聴覚部会の運営については、計画のスケジュールリングや効率的かつ確実な運営のために改善を要する部分がある。今年度の反省を生かしながら、本会が宮崎県の聴覚障がい教育の専門性の継承、発展の一助となるよう、会の運営を工夫していきたい。

# 知的障がい教育研究部会

## 1 活動

「知的障がい教育研究部会の研究大会について」

## 2 主な活動の内容

### (1) 年間活動報告

期 日	会議内容及び活動概要	会 場
6月24日	第1回理事会及び総会（オンライン）	各学校
7月29日	第12回知的部会研究大会（分科会）「都城大会」	都城きりしま支援学校
11月28日	第2回理事会（オンライン）	各学校
2月 3日	第3回理事会予定（オンライン）	各学校

### (2) 全国大会、九州大会等への参加及び協力

- 全日本特別支援教育研究連盟全国大会「秋田大会」令和4年11月11日  
全体会は参加者を制限して会場開催、分科会は誌上開催。
- 九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「沖縄大会」令和4年11月10・11日  
オンラインによる参加

提案発表者

- ◇第5分科会 自立活動「主体的に困難の改善・克服に取り組む自立活動」  
提案発表者 日向市立平岩小中学校 教諭 加塩 祐子
- ◇第6分科会 交流及び共同学習「心のバリアフリーのための交流及び共同学習」  
提案発表者 県立みやざき中央支援学校 教諭 山口 弘高  
司 会 者 県立みやざき中央支援学校 教諭 山本 由紀  
助 言 者 宮崎県教育庁特別支援教育課 指導主事 戸敷 こずえ

### (3) 知的障がい教育研究部会研究大会（分科会）の開催

- 第12回宮崎県特別支援教育研究連合知的障がい教育研究部会研究大会「都城大会」  
令和4年7月29日、8月2日から8月末までオンデマンド配信  
研究大会運営実行委員長 県立都城きりしま支援学校 校長 種子田 保  
研究大会事務局長 県立都城きりしま支援学校 教諭 壹岐 俊介  
研究大会主題 「特別な支援を必要とする児童生徒の進路実現に向けて」  
講演 演 題「特別支援学校高等部職業コース設置に向けた取組」  
発表者 都城きりしま支援学校 教諭 永吉 健太  
パネルディスカッション  
「進路実現に向けての歩み  
～学齢期から就職まで、そしてその後に向けて～」

## 3 主な活動の成果

今年度は県特研連の研究大会を午前中に、午後からは各障がい種別の研究大会を分科会として併催という形での実施となった。今年度は都城きりしま支援学校が計画を進め、オンライン、オンデマンドで「特別支援学校高等部職業コース設置に向けた取組」をテーマに、都城きりしま支援学校の永吉先生が発表をされた。さらにその後、卒業生とその保護者、当時の進路担当職員、相談支援事業所、そして卒業生の働く企業の方を交えたパネルディスカッションを行い、県内の多くの小中支援学校がその様子を視聴した。アンケートでは、「卒業生の声を聞くことができたのは大きかった」など大変好評だった。

昨今の現状から今後もオンライン、オンデマンドでの大会が主流となりつつある。今年度の大会の反省を行い、よりよい大会の実施に向けて、次年度担当校へと引き継がれた。次年度担当校は日南くろしお支援学校である。

## 肢体不自由教育研究部会

### 1 研究主題

「学習指導要領を踏まえた肢体不自由教育の充実をめざして」

### 2 主な研究・活動の内容

#### (1) 年間活動報告

本部会は、清武せいりゅう支援学校と延岡しろやま支援学校（肢体不自由教育部門）で組織され、肢体不自由教育を推進し、会員の資質の向上を図ることを目的としている。この目的を達成するために、研究大会の開催や肢体不自由教育に関する調査研究等を行っている。

#### ① 活動報告

期日	肢体不自由教育研究部会事業	その他の関連事業
4月		
5月		九肢研（大分大会）役員会及び総会 ＜文書審議＞20日（金）～31日（火）
6月	第1回肢体不自由教育研究部会 理事会・ 代議委員会 ＜オンライン会議＞9日（木）	
7月	第24回肢体不自由教育研究大会＜オンラ イン開催＞ 第2回肢体不自由教育研究大会理事会・代議 委員会 ＜オンライン会議＞29日 （金）	第24回宮崎県特別支援教育研究協議 会研究大会 ＜オンライン開催＞ 29日（金）
8月		
9月		
10月		第59回九州地区肢体不自由教育研究 大会（大分大会）＜オンライン開催＞ 14日（金）～11月30日（水）
11月		第68回全国肢体不自由教育研究協議 会（兵庫大会）17日（木）
12月		
1月	第3回肢体不自由教育部会 理事会・代議 委員会 13日（金） ＜場所 清武せい りゅう支援学校＞部会誌第27号発行	
2月		
3月		

#### ② 第24回肢体不自由教育研究大会

本年度は、宮崎県特別支援教育研究協議会が新体制となり、初めて研究大会が開催されることとなった。午前の部では、第24回宮崎県特別支援教育研究協議会研究大会の全体会、午後の部で各分科会が行われ、本研究会の研究大会は、肢体不自由教育分科会として実施された。コロナ禍への対応として、本大会はオンラインでの開催とし、参加者は各学校からのオンライン参加をした。

今大会では、事前のアンケート調査の結果で、肢体不自由教育の場での自立活動について研修したいとの声が多かったため、元文部科学省調査官の下山直人氏を講師として迎え、「肢体不自由

由教育における自立活動の指導の改善について」という演題で講演をしていただいた。清武せいらゆう支援学校職員71名、延岡しろやま支援学校わかあゆ部門職員23名、他の県内特別支援学校職員36名、公立小学校職員7名の計137名が各会場から参加し、肢体不自由教育における自立活動について理解を深めた。講演では、具体的な事例等も交えながら、自立活動をどのように計画し、教育活動の中でどう位置づけ、実践していくかをわかりやすくお話ししていただいた。公演後のアンケートでは、「丁寧でわかりやすく、大変勉強になった。」、「指導すべき課題を明確にすることがいかに重要か学ぶことができた。」等の感想が寄せられた。

### 3 主な研究成果

本年度は、3回の理事会・代議員会を開き、第24回肢体不自由教育研究大会を開催し、1月に部会誌第27号を発行した。清武せいらゆう支援学校と延岡しろやま支援学校（肢体不自由教育部門）の両校の抱える課題や疑問点について研究大会や部会誌の発行をとおして研修を深めるとともに情報の共有を行った。さらに令和5年度の研究大会に向けて内容を検討し、講師の選定や演題の設定等、準備を進めている。

また、助成金を活用して講演会の実施や書籍、教材・教具の購入等を行い、職員の専門性を向上させることにより、資質向上を図り、日々の教育の充実に努めた。

# 令和4年度 病弱教育研究部会

## 1 研究主題（テーマ）

ICT を効果的に活用した教育実践～自立と社会参加を目指して～

## 2 活動内容

### (1) 年間活動報告

期 日	事 業 内 容
5月上旬	病弱教育研究部会理事会・総会
5月～9月	ICT を効果的に活用した教育実践を行うための理論研修・実技研修
7月29日	病弱教育研究部会 夏期研修会
8月17・18日	九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 鹿児島大会（オンライン）
8月中	全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 山口大会（オンデマンド配信）
9月～12月	ICT を効果的に活用した教育実践の実際
1月31日	研修報告会（実践報告集作成）
2月中旬	病弱研究部会理事会

### (2) 病弱教育研究部会夏期研修会（宮崎県特別支援教育研究連合研究大会分科会として開催）

講演「筋ジストロフィーの児童生徒の支援」

－学習面・生活面・心のケア－

講師 国立病院機構 宮崎東病院 脳神経内科医

鈴木 あい氏

## 3 主な研究の成果

### (1) 成果

病弱のある子供たちは医療的な配慮を要するため、活動に制約のあることが多い。また、様々な要因から学校への登校意欲が低下したり、人とのコミュニケーションに苦手意識を抱いていたりすることもある。そのため、ICT を効果的に活用した教育実践を進めることは、児童生徒の自立と社会参加を目指すための一助になると考えた。本年度の研究では、まず、病弱教育における ICT 活用についての理論研修として、独立行政法人教職員支援機構の校内研修シリーズを活用したり、これまでの ICT 活用や先進校の実践事例の共有、実践研修を行ったりした。また、外部講師を招聘してメディア利用に伴う影響等について考える機会を設けた。

夏期研修会は、宮崎県特別支援教育研究連合研究大会分科会として、県内の小中学校の先生方にも聴講いただけるものとした。筋ジストロフィーの児童生徒の支援について医師という立場からとても丁寧な分かりやすい講演であり、他の病弱のある子供たちの支援や将来について考えていく中でもとても参考になった。これらの研修での学びを基に幅広い教育実践を行うことができ、実りのある研究を行うことができた。

### (2) 課題

病弱教育における ICT 活用は子供たちの学びを深めていくためにとても重要となる。また ICT は社会とつながるツールとなっていくことが期待される。ICT は今後も進化していくことが予想されるが、指導に取り組む教師の技量等に温度差もあり、今後も病弱のある子供達の病状の理解を深めていきながら、継続的な ICT 活用についての実践を行っていく必要がある。

## 情緒障がい教育研究部会

### 1 研究主題（テーマ）

「未来につなぐ特別支援教育の推進」～個別の教育的ニーズに応じた支援の在り方～

### 2 主な研究・活動の内容

#### (1) 年間活動報告

事業名	期 日	場 所	内 容
事務局拠点校 連絡会（引継）	4月13日（水）	宮崎南小学校	・ 事務局校の業務確認 ・ 年間事業計画検討
第1回事務局会	5月16日（月）	オンライン会議 （ホスト宮崎南小）	・ 年間事業計画検討
第2回事務局会 第1回理事会	6月16日（木）	オンライン会議 （ホスト宮崎南小）	・ 総会決議（紙面決裁） ・ 年間事業計画検討
第1回研究部会	7月14日（木）	オンライン会議 （ホスト宮崎南小）	・ R5九情研実践発表に向けて 発表資料検討
情緒障がい教育 分科会	7月29日（金）	オンライン研修会 （ホスト宮崎南小）	・ 総会報告 ・ 講演、事例研修
第2回研究部会	9月2日（金）	オンライン会議 （ホスト宮崎南小）	・ R5九情研実践発表に向けて 発表資料検討
第3回事務局会	10月14日（金）	オンライン会議 （ホスト宮崎南小）	・ 今後の事業計画等について ・ 事務局拠点校設置について
第3回研究部会	11月25日（金）	広瀬小学校	・ R5九情研実践発表に向けて 授業研究会 発表資料検討
第4回研究部会	1月17日（火）	広瀬小学校	・ R5九情研実践発表に向けて 授業研究会 発表資料検討
第2回理事会	2月16日（木）	オンライン会議 （ホスト宮崎南小）	・ 年間事業のまとめ ・ 理事会まとめ（次年度の引継ぎ等）
第4回事務局会	3月10日（木）	オンライン会議 （ホスト宮崎南小）	・ 本年度の反省 ・ 次年度の事業計画について

### 3 主な研究成果

本年度より、事務局拠点校を宮崎南小に設置し、円滑な部会運営を図った。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大予防に配慮しながら、活動の規模を最小限にして運営を行った。また、Zoomを使用したオンライン会議等を積極的に行った。

#### (1) 成果

今年度の夏季研修は、「令和4年度第24回宮崎県特別支援教育研究連合研究大会」の午後の部に「情緒障がい教育」分科会として、研修会を開催した。国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター総括研究員である井上秀和先生の講演「特別な配慮を要する子どもの指導の在り方～特別支援学級と通常の学級の連携～」において、インクルーシブ教育システム等に関する動向、学校における指導や支援と二次的な障害等、先行研究と豊富な資料の提供、事例研修などから学ぶことができ、大変好評であった。

また、令和5年度開催予定の第51回九州地区情緒障害教育研究会「長崎大会」のLD・ADHD分科会の実践発表者である、広瀬小学校 白石千絵教諭の授業研究会や研究実践の支援として年間4回の研究部会を行い、児童への効果的な支援の在り方について、研修を深めることができた。

#### (2) 課題

自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍する児童生徒は年々増加傾向にあり、多様化する教育的ニーズへの対応がより一層必要となっている。さらに、通常の学級に在籍する児童生徒の中にも、通級による指導を必要としている割合が高くなっている。今後も通級指導教室の増設に合わせて、より高い専門性をもった教員も求められる。今後も研修を通して、教員の専門性を高め、指導力の向上を図るとともに、保護者や関係機関との具体的な連携についても、さらに取組を進める必要がある。



# 令和4年度 難聴・言語障がい教育研究部会 活動報告

## 1 研究主題

「子どもや保護者の多岐にわたる教育的ニーズに応える支援・指導の在り方  
～ 人と関わる力を高める支援を通して ～」

## 2 活動内容

期日	活動の概要
5月27日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県難言研総会、専門部会（引継ぎ）</li> <li>・ 九難言鹿児島大会発表について</li> <li>・ 専門部会（今年度の計画）、全体会</li> </ul>
6月24日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義「構音指導の実際」講師：山下優子氏</li> <li>・ 専門部会、全体会</li> <li>・ グループ協議「指導上の課題について」</li> </ul>
7月29日(金)	<p style="text-align: center;">令和4年度 宮崎県特別支援教育研究連合研究会 難聴・言語障がい教育研究部会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講演「難聴・言語障がい教育における子ども理解や子どもとの関わり、子どもを支える教室経営の在り方」講師：牧野泰美氏（国立特別支援教育総合研究所）</li> </ul>
8月3日(水) 4日(木)	<p style="text-align: center;">第46回九州地区難聴・言語障害教育研究会 鹿児島大会 新型コロナウイルス感染症感染拡大のため中止 誌上発表</p>
10月27日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義「初心のいっぽ、もういっぽー心を育てる構音指導ー」 講師：西田立郎氏（元埼玉県白岡市篠津小学校教諭 言語聴覚士）</li> <li>・ 全難言埼玉大会発表検討会</li> <li>・ 九難言長崎大会発表検討会</li> <li>・ 専門部会、全体会</li> </ul>
12月8日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義「構音指導の実際」講師：山下優子氏</li> <li>・ 全難言埼玉大会発表検討会</li> <li>・ 九難言長崎大会発表検討会</li> <li>・ 専門部会、全体会、グループ協議</li> </ul>
2月14日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義「心を育てる構音指導」講師：西田立郎氏</li> <li>・ 九難言長崎大会発表検討会</li> <li>・ 活動総括と次年度に向けての協議</li> <li>・ 専門部会</li> <li>・ 九難言沖縄大会発表について</li> <li>・ 実践事例集製本</li> </ul>

## 3 主な研究成果

### (1) 成果

本年度は、第1回研修会が新型コロナ感染防止のため、専門部ごとのサテライト式オンラインでの研修となった。その後の部会は対面で計画的に開催することができた。本年度は、講義を4回実施し、基本的な構音指導について具体的に学んだ。日頃の悩みや疑問を解決できるとともに、実践に生かすことができる実り多い内容となった。

本年度予定されていた第46回九州大会難聴・言語障害教育研究会鹿児島大会は中止となったものの、その大会で発表する宮崎県代表者の研究内容を確認し、全体で研修を深めることができた。また、来年度以降の研究会での発表検討会も重ねることができた。

### (2) 課題

ことば・きこえの教室、難聴学級での指導は、基本となる手立てや専門的な技術を習得した上で、一人一人の児童の実態に合わせて進める必要がある。本年度は、講義を実施することで、改めて手立てや教材・教具について確認し、実践する機会となった。これからも、講義や担当同士の情報交換を通して、個別に対応のできる専門性の向上に結びつく研修内容を計画し、実施していきたい。